

「第1回 大阪・関西万博 開催支援 EXPO」

「第1回 空気のみらい EXPO」

(2022年3月15・16日、インテックス大阪)

展示会のカーボンニュートラル化への取組み
報告書



大阪・関西万博 開催支援 EXPO / 空気のみらい EXPO 実行委員会

(運営事務局：株式会社イノベント)

目次

- ・ 目的
- ・ 収支計算書
- ・ 実際の実組み
 - 1) カーボンオフセットのためのカーボンクレジット 購入
 - 2) FSC 認証紙 / 植物油インキ を利用した印刷
 - 3) ゴミの分別・リサイクル
 - 4) デジタルパンフレットの導入
 - 5) 植物由来素材備品の利用
 - 6) 遠隔来場用ロボットの導入
- ・ まとめ / 次回に向けての課題

< 目的 >

多くの人やモノ、情報が集まる「産業見本市・展示会」は、その経済効果の大きさは（日本ではまだ充分とは言えないものの）徐々に知られるようになってきた一方で、出展社・来場者の会場までの移動やブース装飾等によって排出される【CO₂】や【廃棄物】の量についての把握・振り返り・最小化への努力については、これまでほとんどなされてこなかった現状があります。

2022年3月15日・16日の2日間、インテックス大阪にて開催した「第1回 大阪・関西万博 開催支援 EXPO」「第1回 空気のみらい EXPO」では、上記の現状を鑑み、出展社の皆様に1小間あたり5,000円の環境負荷軽減分担金のご負担をお願いし、集まった分担金をCO₂・廃棄物の削減やリサイクル素材の活用等に使用させていただく【**環境配慮型展示会**】として開催いたしました。

その結果として、出展社・来場者の移動を含めて展示会全体で排出されたと想定されるCO₂量 約93トンのCO₂無効化を行い「カーボンニュートラル展示会」を達成したほか、FSC認証紙/植物油インキの積極的活用、ゴミの分別/リサイクルをはじめとしたさまざまな活動に利用させていただきました。

本報告書では、活動全体の収支を明らかにするとともに、私どもが実際に行った環境負荷を軽減させるための活動をご報告させていただき、次回の開催に向けて取り組むべき活動などを総括いたします。

出展社の皆様におかれましては、本報告書を通じて今回の活動に対してさらなるご理解をいただきますとともに、次回以降の取組みに関しても引き続きのご理解・ご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願いいたします。

最後に、本報告書を手にとっていただいた、特に展示会・イベント業界に携わる皆様に、「持続可能な展示会の開催」に向けて、少しでもご参考になれば望外の喜びです。

2022年5月吉日

大阪・関西万博 開催支援 EXPO / 空気のみらい EXPO 実行委員会
実行委員長 堀 正人
事務局長 森嶋 勝利

< 収支計算書 >

【収入の部】

- 環境負荷軽減分担金 197.5 小間×5,000 円 = 987,500 円

- 事務局負担金 53,623 円

合計 1,041,123 円

【支出の部】

- 1) カーボンオフセットのためのカーボンクレジット 購入費 93 トン分 186,000 円

- 2) 印刷物を①FSC 認証紙 ②植物油インキを利用 して製作した費用 247,185 円
(通常印刷と比べた場合の超過分のみ計上)

- 3) ゴミの分別・リサイクル費用 225,520 円
(分別せずに廃棄した場合と比べた際の超過分のみ計上)

- 4) デジタルパンフレット利用・準備費用 51,745 円

- 5) 植物由来素材備品の購入費用 10,673 円
(通常備品購入と比べた場合の超過分のみ計上)

- 6) 遠隔来場用ロボットの利用費用 320,000 円

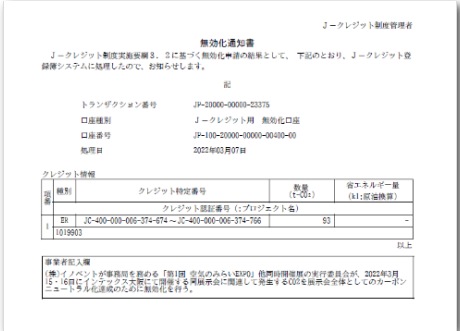
合計 1,041,123 円

< 実際の実践 >

1) カーボンオフセットのためのカーボンクレジット 購入

展示会を開催する以上は、出展準備活動や来場のための移動などによる CO₂ 排出は避けられません。そこで事務局では、本展示会の開催にあたって排出される CO₂ 量を計算し、それと同等量のカーボンクレジットを購入することで、CO₂ の排出量を実質 0 にする取組み（カーボンオフセット）を行いました。

なお、CO₂ 排出量の算出にあたっては、関西電力株式会社様のご協力・ご指導の下で、排出項目の作成や各項目の数値の算出を行ったことをご報告いたします。



無効化通知書
J-Credit 制度取扱要領に基づき無効化申請の結果として、下記のとおり、J-Credit 登録簿システムに処理しますので、お知らせします。

記

トランザクション番号 JP-2000-0000-2275
口座種別 J-Credit 用 無効化口座
口座番号 JP-100-2000-0000-0000-00
発行日 2023年03月07日

種別	クレジット特定番号	数量 (t-CO ₂ e)	従来エネルギー量 (t-CO ₂ e換算)
クレジット登録番号 (サブプロジェクト名)			
ER	JC-400-000-000-374-074 ~ JC-400-000-000-374-766	93	-
1019263			
以上			

事業者記入欄
※ J-Credit が事務局を定める「第1回 定例のめいらい30日」前開明期限の履行委員会が、2023年3月7日開催に付、クレジット登録簿に記録する開明開示に際して発生するCO₂を換算エネルギーとしての一時的に無効化を伴う。

▲ J-Credit 無効化通知書

【本展開催にあたっての CO₂ 排出量】

1) 移動に伴う排出：53.85 トン

来場者をはじめ、出展社・事務局スタッフの移動に伴う CO₂ 排出量を、会場からの距離に応じて使用する交通機関（鉄道、航空機、バス 等）を想定し、算出しました。

2) 宿泊に伴う排出：14.88 トン

来場者・出展者・事務局スタッフの宿泊日数を想定し、算出しました。

3) 会場のエネルギー利用に伴う排出：10.74 トン

展示会場における電気・ガスの使用量を想定し、算出しました。

4) 紙の使用に伴う排出：9.92 トン

出展者および主催者が展示会で使用する紙の量を想定し、算出しました。

5) 水の使用に伴う排出：0

展示会場における水の使用量を想定し、算出しました。

6) 廃棄物処理に伴う排出：3.29 トン

展示会場にて処理する廃棄物の部材毎の量を想定し、算出しました。

1～6の合計：92.68 トン = 93 トン分のカーボンオフセットを行いました

2) FSC 認証紙 / 植物油インキ を利用した印刷

紙の資料は、一覧性や利便性の側面でデジタル資料に比べて優位な側面も多く、展示会の開催にあたって欠かせません。したがって事務局が作成する招待券や会場案内図などの紙の印刷物に関しては、できる限り環境負荷を小さくすべく、①FSC 認証紙を利用し、②植物油インキを使用し印刷するようにしました。



3) ゴミの分別・リサイクル

展示会場から排出されるゴミの量は非常に多く、以前から何とかならないものかと思っていました。一方で、ゴミを減らす/出さないことばかりに注目すると、出展社の皆様が展示会場でやりたいと思うブースづくりやPR手法に制限をかけてしまうことにもなりかねません。そこで今回は、これまでは単に産業廃棄物として捨てられてしまうゴミをできる限り分別し、リサイクル（再利用）を行いました。



4) デジタルパンフレットの導入

展示会として紙の資料をゼロにはできないものの、デジタルで代替できるものもあるのではないかと、また、デジタルの方が利便性の優れているものもあるのではないかと、という発想から、出展社の皆様がブースで配布する紙の資料の一部をデジタルデータに変換し、来場者の方々にQRコードをスマートフォンで読み込んでいただくことで資料のデジタルデータを受け取っていただく試みを、Sansan 株式会社様のご協力の元、実施いたしました。



5) 植物由来素材備品の利用

特に脱プラスチックの観点から、従来使用していたクリアファイル等のプラスチック製品の代替物として、植物由来素材を使った製品を購入し使用いたしました。



6) 遠隔来場用ロボットの導入

CO₂の排出量の多くは、移動、特に来場者の移動に伴い排出されるCO₂です。そこで今回は、特に遠方から来場される方々に、実際の来場と同様の感覚を、遠隔操作ロボットを用いてお感じいただくことで、実際に来場いただくのに準ずる体験を提供する試みを行いました。



テストを兼ねた試みでしたので、今回はインテックス大阪までのご来場が、時間・費用・コロナ対策等様々な面から難しかった東京にある各国の大使館の皆様を中心にご招待する形で行いました。会期中2日間合計で14の大使館をはじめとする皆様を、遠隔来場用ロボットを用いた形で会場にご招待し、多くの参加者からご好評を頂きました。

< まとめ・次回に向けての課題 >

1. 効果は変えることなく CO₂排出量を削減するアイデアをより多く

効果を減じてまで環境に配慮する方法論は、やはり出展社の皆様にも受け入れがたい部分があるのではないかと思います。効果を変えずに CO₂排出量を削減できるアイデアは、今回あまり多く見つけることができませんでした。次回に向けては、(コスト増にはなっても) 効果減にならないアイデアを広く募り、私共事務局が積極的にそのアイデアを採用することはもちろん、出展社の皆様にもアイデアをご紹介し、ご評価いただければ採用いただくというスキームを組むことが出来れば良いと思っています。

2. コスト増・効果減なく廃棄物の量を削減する工夫を

ブースの廃材を中心とした廃棄物については、今回リサイクルの取組みは行ったものの、廃棄物の「量を把握する」ことができたのみで、「量を減らす」ための取組みはほとんどできませんでした。

次回に向けては、廃棄物の量をそもそも減らすための取組みにはどんなものがあるのかを調査し、出展社の皆様のコスト増・展示効果の減にならない方法論を事務局から出展社の皆様にご提案する(もちろん事務局自身がその方法論を採用する)ことで、展示会全体としてのサステナビリティの向上につなげていきたいと思っております。

3. 出展社の皆様に、本取組みの賛同者としてのメリットを

ご出展社の皆様には、出展料金の他に費用のご負担をいただき、本取組みにご参加いただきました。出展社の皆様も、SDGsを意識した様々な取組みや、いわゆる「環境経営」にも取組まれているかと思っておりますので、それぞれのご出展社が参加した展示会でカーボンニュートラル化への取組みが行われたこと、そして、展示会全体でカーボンニュートラルを達成した展示会にご出展されたという事実をPR等にご活用いただけるようにしてまいりたいと思っております。

具体的には、証明書等を事務局から各ご出展者様宛に発行する、などの方法をとることで、出展社の皆様がステークホルダーに対してご説明がしやすいような取組みを積極的に進めてまいりたいと思っております。